

2団体がセミナー開く

テーマは「データガバナンス」「強盗対策」



JEASのセミナー

3月4日～7日に東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催された「SECURITY SHOW 2025」（主催：日本経済新聞社）で、日本万引防止システム協会（JEAS・稲本義範会長）と総合防犯士会（ASES・齊藤賞一会长）がセミナーを開いた。

JEASは「AI（映像等）にデータガバナンスを織り込む重要性。その事例は」と題して行った。司会は丸の内総合法律事務所・木村一輝弁護士が務め、Casley Dleep Innovation's・黒岩佳加執行役員、高千穂交易RSプロダクトチーム・佐久間博之チームマネージャー、セーフィー第1ビジネスユニット・佐伯穂高副部長が登壇した。

両登壇者はAIで取得した映像の活用とデータガバナンス順守を両立させた自社の事例を紹介。システム導入時にユーザーを支援する取り組みとして①チェックシートを用意し、利用目的特定や運用基準策定、安全管理措置などの項目をチェック②導入前・導

入時・導入後とフェーズごとの準備・対応状況を確認③個人情報保護方針や運用マニュアル、店舗掲示など文書のひな形を提供——を紹介した。ASESは「あなたの家が狙われたら？」の演題でセミナーを行った。総合防犯士会・山田智典副会長が司会を務め、富山県防犯設備協会・高嶋郁事務局長と大阪府防犯設備協会・齋藤陽子副理事長が登壇。闇バイトによる強盗犯罪の対策をプロの視点から解説した。ハード面ではドア鍵交換や防犯ガラス、防犯フィルムなどの活用。ソフト面では犯行の機会を与えないことや、家族や友人、学校・職場など自分の周囲から犯罪者を出さない取り組みを紹介した。